それで城下町若松に対してその渡し場に向けて、真渡は下口とか七日町口といい、蟹川は柳原口、中荒井、二日町渡しは深川口、川原町は幕の内口、三本松は飯寺口、上米塚・徳久が一の堰方面への渡し場として利用されていた。そのための北会津村の各部落からの細道などが、それぞれの渡し場に通じる慣行的に行きつけたものとしてあった。

本田・十二所付近を通る旧銀山街道の一里塚のあった場所
（人の立っているところ）

会津藩として駅逓の制を布いたのは正保四年（一六四七）で、高田町には駅検断もおかれたとある。文政三年（一八二〇）の高田駅の文書をみると「高田より若松まで百十四文、但大水出たときは下小松船場まで」この下小松船場は今の三本松附近である。「高田より大川船場まで七十六文」などとある。

下荒井に宿駅ができたのは、軽井沢銀山の再開発された元和二年（一六一六）で、その前年より再開発に着手したらしい。同三年には毎月三〇～四〇貫の銀を産したという。主な搬出路は松坂・佐賀瀬川・下荒井を通じて城下町に出た。

鉱山には盛衰があり、寛永十九年（一六四二）飢饉のため休山したが、正保元年（一六四四）保科正之三度開坑し、享保五年（一七二〇）頃が最も栄えたらしい。

下荒井は旧鶴沼川の扇状地地形と、湧水の関係などから、もともと城廓を北端にして南北に細長くできた村らしいが、宿駅にな